

～～第8562回～～

大台ヶ原

～H30. 11. 16-17～

1日目(11月16日)大台ヶ原は奈良県の南、三重県尾鷲との県境に位置し熊野灘を望む吉野熊野国立公園にある。年平均降水量は4,000mmを超え日本有数の多雨地帯として知られている。昭和36年大台ヶ原ドライブウェイの開通を機に一般観光客が訪れるようになるが、30年代の伊勢湾台風、室戸台風によるトウヒ林風倒被害その後、ミヤコザサが林床を覆うようになると、ササを主食とする鹿害により、森林植生の衰退が進んだ。平成18年に西大台利用調整地区が指定され、事前申請により入山許可を取り前日までにレクチャーを受けることが義務付けられている。安倍川駅を5:00に出発。亀山から名阪国道に入り、針ICから飛鳥吉野へ南下する。大台ヶ原ドライブウェイに入り大和上市からの路線バスの後をビジターセンターに向かう、200台収容の駐車場に10:35到着。あす西大台に入山するためにレクチャーを希望したが、天候の良いうちに東大台を回ってくることを勧められ、午後最終の16:00からのレクチャーに間に合うように登山開始。日出ヶ岳へは標高差120m、30分で着いた。展望台からは大峰山の山々、大杉谷、熊野灘360度のパノラマが広がる。風をよけ昼食をとり、正木ヶ原に向かう。歩道階段が整備され、動植物等の案内板も多い。昭和30年代の鬱蒼とした苔むした森の写真が、現在の立ち枯れた様とを比較させる。昭和3年に建立された神武天皇の像がある牛石ヶ原、その先を大蛇ヶ原へと下る。ここは豪雨によって削られた絶壁V字溪谷を見渡す。大台ヶ原のパンフレットでメインの見所だ。足のすくむような岩場を早々に切り上げ、シオカラ谷を経由してビジターセンターへ向かう。ほぼ平坦な台地と思っていたのが、140m余りを一旦降って登る。山歩きらしい高低差だった。この辺りはシヤクナゲの見頃は素晴らしいようだ。15:15ビジターセンターに到着。あす入山予定者が他にいないということで、時間前だがレクチャーを受けさせていただく。すぐ隣の宿泊施設、心・湯治館はドライブウェイ開通の翌年に完成。4月の第4週から11月末まで営業。この日の宿泊は、ほぼ貸し切り状態だった。

天候：晴れ

地図：大台ヶ原山

コースタイム：安倍川駅前 500＝大台ヶ原駐車場 1045-1110…日出ヶ岳 1145-1215…正木ヶ原 1250…尾鷲辻 1305…牛石ヶ原 1330…大蛇ヶ原 1345…シオカラ谷 1440…ビジターセンター1515

記録：焼津支部 BaBa

2日目(11月17日)降水量の多い所で名高い大台ヶ原。晴天ではないにしろ、雨には御遠慮願いたいと思いつつ2日目の朝を迎える。どうやら雨の音は聞こえないようだ。まだ薄暗い早朝、不要な荷物等は車に積み、男性陣二人での車移動に、宿のスタッフの方の御厚意で下山口である小処温泉迄、道案内をして頂く、帰りは車に乗せて頂いて無

事宿に戻ることが出来た。その後全員で畳の上でストレッチを行い、ようやく 7:00 に朝食を摂る。ザックを軽くしたところで、昨日レクチャーを受講した内容を頭に浮かべながら出発。大台ヶ原駐車場を抜け「大台教会」と書かれている看板横から、いよいよ西大台へと入って行く。西大台は一時期荒廃が進んだ為、自然環境保護の目的で、環境省が「利用調整地区」と指定しているとの事。その為一人一人が「立ち入り認定証」となるカードを首にかけて入山する。入山時に 1 グループにつき 10 名迄と人数制限が設けられている。他にも細かいルールが有り違反時には罰金が課せられるようである。厳しい制限を設けないと自然保護が維持出来ない事が何と残念である。大台教会(キリスト教ではなく、神道)横を下り、出入り口に敷いてあるマットで靴の泥を落とし歩き始める。約 1 時間弱歩き七ツ池に着いた。池が 7 つ有るわけではないとの事。この辺りの苔は一部枯れ始めなのか黄色くなっている。廻りの景色を見ながら歩くと背丈以上の高い防護ネットが広範囲に張られている。鹿が多い事の証明であろう。倒木が結構目立つ。樹齢何年なのか、なかなかの巨木である。倒木には苔や貝殻と間違いそうな猿の腰掛が多く生えている。まるで人工的造形品とも思える程、見応えのある光景である。途中休憩をとり乍ら進み、青々とした苔が木の上部まで生えている。夏期には葉っぱも多く木洩れ日が射す程度で、とても緑が多く歩き易い森林に様変わりするそうだ(日焼けの心配はないとの事)苔に触れると以外にも乾燥しているような感触で水気が感じられない。それでも色鮮やかで、登山者の心を和ませてくれる雰囲気を出す苔の魅力がとても素晴らしい。この苔に囲まれながら休憩をとりつつ進む。ロープに伝わりながら川を渡った先に有る渡渉点を通り過ぎ開拓跡に到着、ここは厳しい自然条件の為、開拓に至らず頓挫したとの事、ここから開拓分岐を過ぎ、途中にとっても奇妙な形をしたミズナラの巨木があった。パンフレットにはカボチャのような形と表現されていた。そろそろ空腹でエネルギー切れの状態に近づいてきたようなかんじがする。逆峠展望台にようやく到着。昨日登った大蛇岨が、この展望台からみえるはずだが、今一はっきりとしない。さらに日当たりの良い尾根を目指し、幅の狭い道なき道のような所を、幾つかの山を巻きながら尾根に出る、枯れ葉が多く歩き易いのだが、一方で地面が見えない為危険にも思える。風もなく薄日の射す闇岐峠で落葉した木々の中に、たった一本だけ残っている紅いモミジを眺めながら昼食を摂る。休憩後、最後の小処温泉を目指して下って行く、下山口迄は約 2 時間強の予定。ただ下って行くのみと安易に考えていた事が知識不足であった。景色を見る余裕もなく、道幅が狭いため足元だけを見て進む。所々息をつける所で回りを見渡すと全ての紅葉は終わっている。前進はしているが下っては上り、何回も山を巻いて進んでいるのだが、ただ平行移動しているのみ。この様なコースが暫く続く。いつになったら下った実感が味わえるのか。その後やっと下り始めて林道にたどり着いてホットする。小休憩をとりながら森林の中、林道と繰り返し目的地である小処温泉にようやく着く。一汗流してスッキリ気分が帰路につけると喜んだのも束の間、施設は真っ暗。駐車している車は私たちの車のみ。なんと後で解ったことだが臨時休業だったら

しい。途中、サービスエリアで夕食を摂り無事安倍川駅前に着いた。

参加者：10名（静岡西9、焼津1）

天候：晴れ

地図：大台ヶ原山

コースタイム：心・湯治館 740…七ツ池 900…渡渉点 940…開拓分岐点 1000…逆峠展望台 1030…闇岐峠 1215…小処温泉 1400＝安倍川駅前 2130

記録：静岡西支部 渡辺



東大台、正木ヶ原への下り



東大台の絶景、大蛇岨



西大台の豊かな苔の様子